

カリフラワー

カリフラワーに含まれているグルコシノレート(イソチオシネートの前身物質)は抗酸化作用以外に肝臓を強化し解毒機能を活性化させる働きもあることから、老廃物・有害物質の排泄を促進するデトックス効果が期待できます。また、ビタミンCが豊富なため、ストレス対策にも適した野菜と言われています。

7月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「生き生き健康野菜づくり」より

雑草図鑑

スズメノカタビラ・オニノゲシ

7月の農作業

作型 湿害に弱いので、水はけの良い場所を選ぶ。水はけの悪い所は高畝にして、できるだけ排水に心がける。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋 植 え							○	○	△	△	■	■	スノークラウン、パロック

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり aあたり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 aあたり	
野菜専用肥料	5kg
醗酵鶏糞	40kg
畝立時施用	

- ・畝幅70~80cm
- ・株間30~40cm

種まき・苗づくり

- ・育苗箱に6cm間隔にすじまきする。
- ・覆土は5mm程度。
- ・発芽するまで、乾燥しないよう、新聞紙をかける。
- ・本葉2~3枚の頃、直径9cmくらいのポットに鉢上げする。
- ・害虫予防、日よけのため、白寒冷紗をかける。

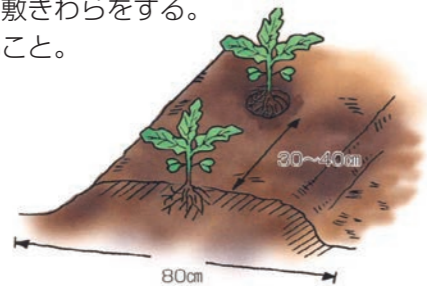
追肥・土寄せ

- ・定植約3週間後(元葉8~9枚)と花蕾が見え始める頃に土寄せと同時に野菜専用肥料6~8kg/a施用する。



定植

- ・本葉5~6枚の頃植え付ける。
- ・土壌が乾燥しやすい場合は植穴に灌水して定植し、株元に敷きわらをする。
- ・深植しないこと。

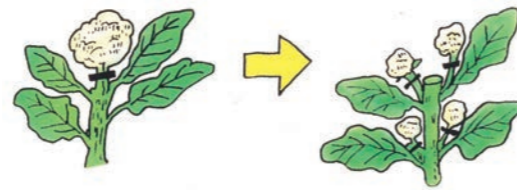


軟白

- ・品質保持のため、花蕾が見え始めたら、直接日光に当てないように外葉を束ねてひもでしばるか、外葉を折り曲げて花蕾にかぶせる。

収穫

- ・頂花蕾は直径10~12cmで蕾の型が崩れないうちに収穫する。
- ・わき花蕾は花が咲かないうちに収穫する。



防除

病虫害名	耕種防除	薬剤防除
黒腐病	排水を良くする 発病株は除去する アブラナ科作物以外のものと輪作する	Zボルドー(500倍)
ヨトウムシ	早期発見し、群生幼虫分散前に捕殺する	エルサン乳剤(1000倍) 14日前2回
コナガアムシ	育苗期に寒冷紗等で覆う 収穫後直ちに耕起する	モスピラン顆粒水溶剤(2000倍) 7日前3回

裏面は雑草図鑑 スズメノカタビラ・オニノゲシを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.303 平成28年7月15日発行

スズメノカタビラ

越年草または1年草。生育期間10~7月。種子で繁殖。道ばたや人家の周辺、庭、樹園地、桑園、畑地、芝生などいたるところに生育する。スズメノテッポウとともに畑の代表的な強害草である。暖地の日当たりのよい場所では冬の間でも花が咲いている。秋に発生し幼苗で冬を越す。幼苗はスズメノテッポウに似るが茎が扁平で葉が幅広いので区別できる。春早くから成長し株になる。茎は扁平でそう生し高さ5~30cm。葉は線形、茎、葉ともに無毛。春早くから花が咲く。茎の先に卵形の花序をつけ、幾本もの穂軸が左右に開きその穂軸に小さな淡緑色の小穂がたくさんつく。

防除のポイント

除草剤として主要な作物を植えていない場合はラウンドアップ。ある場合はセレクト乳剤が効果的である。



生育中期



芽生え期



開花期

オニノゲシ

越年草または1年草。生育期間11~8月。種子で繁殖。明治年間に日本に入ってきたヨーロッパ原産の帰化植物。畑地、樹園地、道ばた、あき地、庭などに普通に生育する。おもに秋に発生し根出葉で冬を越し翌春成長して茎が立つ。茎は円柱状で中空、縦の稜がある。高さ1~2mになる。茎は互生し、下部のものは羽状に切れ込み、へりに鋸歯があり先は強く堅いとげ状となって触れると痛い。茎、葉ともに切ると白い乳汁が出る。春~夏に茎の上部がたくさんに分枝し、その先に黄色い多くの花が集まり咲く。ノゲシに似ているがノゲシよりやや大形で、葉の縁のとげが鋭いので区別がつく。

防除のポイント

除草剤として主要な作物を植えていない場合はラウンドアップ。ある場合はザクサ液剤やバスタ液剤が効果的である。



オニノゲシの花



オニノゲシの花と葉



越冬期

※農薬使用の際は、使用方法・使用時期をよく確認して使用しましょう。

裏面はカリフラワーを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.303 平成28年7月15日発行